

令和 6 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13844

研究課題名（和文）地理的空間・場所に基づく世界市民的教育の理論と実践に関する研究

研究課題名（英文）Research about theory and practice of cosmopolitan education based on geographical space and place

研究代表者

広瀬 悠三（Hirose, Yuzo）

京都大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：50739852

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：世界市民的教育は、普遍的価値や人権といったものを教える教育と同一視される傾向が以前強い状況に対して、本研究では、地理的な具体的かつ豊潤な空間こそが、世界を体得する上で不可欠な基盤になることを明らかにした。とりわけ、人間関係の要に位置づけられる、信頼が、個別的な人間の性格や性質に根ざしているのではなく、人間がこの世界で行動する空間的な営みへの期待と信仰によって成り立っていることを明らかにすることで、世界市民的教育・人間形成における空間の基盤的特質を明らかにすることができた。

世界市民的教育は、さらに新たな対話や批判的思考といった視座から問い直されることがあるが、それらの基盤が空間なのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地球環境問題や戦争といった、国境を超えた問題に対処する教育を考えるにあたり、世界市民的教育は、極めて重要な意義を有している。しかしながら、世界市民的教育は、(1)西洋中心主義的な普遍的教育、(2)新自由主義的な資本主義に加担するグローバル教育、として批判に晒され、その内実や意義が十分に検討されていないという現状にある。このような状況において、世界市民的教育の理論的内実を十分に解明することが不可欠となる。本研究では、空間というものの重要さを解明することを通して、上記の2つの批判のいずれにもあたらない世界市民的教育の意義を明らかにし、より実行力のある実践を提起する基盤を構築した。

研究成果の概要（英文）：Cosmopolitan education is usually identified with an education which indoctrinates universal values and human rights. On the contrary, this research project attempted to clarify a geographical and rich space as the fundamental matrix of cosmopolitan education, for we can enjoy whole world through experiencing such geographical concrete but essential space. Concretely, I unraveled the nature of trust, which embodied the core of human relationships. Trust does not lie in an individual temperament or characters, but the space where individual lives, experiences, dwells and believes. Through this investigation, I proposed that cosmopolitan education and human formation should be based on space in this world.

New cosmopolitan education, which emphasizes dialogue and critical thinking, should also pay attention to this space we exactly live in.

研究分野：教育哲学

キーワード：世界市民 地理 空間 信頼 人間関係

1. 研究開始当初の背景

環境問題や、戦争・テロといった対立など、国境を越えた問題に取り組むことが喫緊の課題になっている。教育学においても、この事態に対処するため、一国に閉鎖的にとどまらない教育の可能性を模索することが急務になっている。つまり単なる市民性の教育 (citizenship education) ではなく、世界市民的教育 (cosmopolitan education) の考察が求められているのである。世界市民性 (cosmopolitanism) は古代ギリシャ以来様々に考察されてきたが共通点として、「人間は国籍、人種、ジェンダーなどにかかわらず一つの世界に属しており、さらには基本的な共通の考え等を共有しているということ」が挙げられる。この状況を受けて、世界市民的教育の研究の特徴には次の3点が挙げられる。

(1) 共通の人間性と他者との連帯感を育てることを考察する研究 (A. Osler & H. Starkey, *Changing Citizenship*, 2005)、(2) 人間性に不完全さを見ることで、普遍性を崩す世界市民的教育を考察する研究 (S. Todd, *Toward an Imperfect Education*, 2009)、(3) 普遍性と特殊性への反省の形成を重視する研究 (D. Hansen, *The Teacher and the World*, 2011) である。しかしいずれも、普遍性と特殊・地域性の二項対立に縛られ、その対立を前提にしてのみの世界市民的教育を考察しているにすぎず、具体的な実践も構築できていない。

世界市民的教育の考察において、世界市民性は、普遍的価値や人権と同一視される傾向があるが、それでは普遍性が特殊の実践を行うことを妨げ、教育実践を構築することができなくなってしまう。しかし古代ギリシャのディオゲネスが用い、さらに近代ではカントによって深められた世界市民 (kosmopolites) は、kosmo(s) = 世界、宇宙という特定化されない空間・場所、polites = 都市国家ポリスという特定の場所に住む人という矛盾した概念によって成り立っている。この両概念の根源的共通点は「空間」「場所」に依拠しているということである。そのため、世界市民の原義に基づきかつ実践にも力強く関わるためには、普遍性—特殊性の対立からではなく、空間と場所の考察を起点にして、世界市民的教育を新たに構成する必要がある。したがって本研究の核心的問いは、「世界市民的教育を成り立たせる可能性の条件である空間・場所はどのようなもので、それに基づく世界市民的教育はどのように実践的に構築することができるか」ということになる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「喫緊な課題である世界市民的教育を、普遍性—特殊性の二項対立を超えて、地理性をもつ空間と場所の考察を起点とし、そこから立ち現れる人間の関係的な信頼の営み、さらには動物や植物といった事物との異種有機混淆的活動の検討を通して考察することで、人間中心主義をも超えた現実的な実践的推進力のある世界市民的教育を構築すること」である。UNESCO は、2014年に世界市民的教育よりも具体的な地球市民教育 (Global Citizenship Education) の重要性を示しているが、暴力性を否定するための基本的人権の尊重など、普遍性—特殊性の前提の限界を自ら内包している。翻って日本の学習指導要領では、世界市民的教育に関わる事項は、持続可能な発展のための教育など個別的には示されつつも、体系的かつ具体的に提示されていない。このよう

な現状も踏まえ、世界と日本の世界市民的教育の実践に資する、新たな世界市民的教育を、地理的・地理教育的視点からの空間と場所の創出の考察から理論的かつ実践的に説明する。

3 . 研究の方法

地理学の空間・場所理論を踏まえて、人間形成にとって空間と場所がどのような意味をもつのかを説明する。教育学においては、時間に比して場所や空間の考察は軽視されてきた。唯一の体系的な人間形成的な空間の考察 (O. F. Bollnow, *Mensch und Raum*, 1963) を基に、没場所性と対比される本物の場所の検討 (E. Relph, *Place and Placelessness*, 1976) さらに空間自体の創造的かつ異種混淆的なあり方の考察 (D. Massey, *For Space*, 2005) を手がかりに、主観と客観を超えた人間の空間的・場所的創造変容形態を明らかにする。地理教育の人間形成論的意義を、カントの地理教育論を基盤に据えながら、デューイとシュタイナーの地理教育論・空間的人間形成論から析出し、有機的な複数主義的人間形成の意義を明らかにする。空間と場所において現出する人間の関係における可能性の条件である信頼を、教師と子どもの非対称的人間形成力としての信頼 (O. F. Bollnow, *Die Pädagogische Atmosphäre*, 1964) と、人間の中の倫理学の基底である信頼 (和辻哲郎『倫理学』、2007) から吟味し、事柄や自分、友人という水平的・地理的關係からの信頼によって人間がどのように変容していくかを明らかにする。動物、とりわけまた植物といった事物の深い共生的関わりを考慮に入れながら (M. Marder, *Plant-Thinking, A Philosophy of Vegetal Life*, 2013, etc.)、空間と場所の独自の創造性に基づく人間と人間以外の関係性を信頼と複数主義的共生という点から吟味し、世界市民的教育の新たな位相を明らかにする。

研究方法としては文献の読解と解釈が主な研究方法となる。

4 . 研究成果

(1) 世界市民的教育の基盤としての空間的な信頼

世界市民的教育は、普遍的な価値や基本的人権を教え込むことではなく、世界を体得することである。そのために根本的に位置づけられるのが、人間関係と、他の存在者と事物への関係である。そのような関係において、本質的なものとして捉えられ得るのが信頼、である。しかし信頼は個別的な個人の性格や信念に根ざしているのではなく、事柄、例えば教育学を信頼するということや、自分が行いたい事柄を信頼する、ということも問題になることを考慮し、事柄への信頼、という独自の信頼を説明することのできる、より包括的な枠組みが必要であることを明らかにした。そのような事柄への信頼は、人間を信頼しているということではなく、人間が営む様々な行為空間、もっと言うならば、それらの空間的な営みにこそ、向かっているものであり、それゆえに、信頼は、空間的に捉えることで、より十全な信頼が浮き彫りになるように思われる。この空間とは、人間がこの現実的世界と行為する場所としての空間のみならず、超越的世界における空間をも含む、総合的な空間であり、そのような空間を受け入れて、そのような空間における人間の営みや行為、そして人間にとどまらない存在者の営みを受け入れ、是認するという、それが事柄を信頼するということであり、そこにおいて、わたしたちは世

界へと開かれる通路を確保できるようになるのである。

事柄への信頼という点から、空間的信頼について、初めて考察し、論考として提起することができた。空間的な信頼を考察するにあたり、ボルノウをはじめとして哲学者・教育学者の空間論やブーバーやレヴィナスなどの存在論、生の哲学の論考を踏まえながら、空間的な信頼という信頼の特質を描き出すことができた。その成果は、本研究助成の修了後とはなるが、Yuzo Hirose "The Spatial Nature of Trust in Cosmopolitan Education" *Philosophical Inquiry in Education* 30, (1), 42-55 (2023)にまとめて発表された。

(2) カントの地理教育の空間的な根本的内実

カントの地理教育は、自然地理学をどう読むか、ということと密接に関係している。というのも、カントは自然地理学を講義することで、青年・若者を教育しようと試みていたからである。カントの地理教育は、自然神学から距離を取り、より科学的な思考を行うことができるように促すという理解や、人種主義的な言説を含むために結局のところ西洋中心主義的な啓蒙思想の普及にすぎないという解釈が存在する。それに対して、本研究では、カントが『自然地理学』の序論で、ことのほか「世界」に何度も言及し、世界知こそが、地理教育の要であることを主張していることに注目した。そのことで、カントの地理教育は、世界を生きることであり、そこにおいて、単なるそれぞれの地域の特色や特徴を学ぶだけでなく、世界全体を学ぶことに力を注いでいることを重視する必要が出てくる。

カントの世界についての捉え方は、決して一義的ではないがゆえに、そもそも世界とは何を意味するのか、というところから考察をはじめることが求められる。カントにおいては、現象の総体としての世界と、道徳的な叡知の世界、さらには宇宙生成論的な世界が存在するが、それらの基盤には、人間をはじめ存在者が生きるこの現実的世界が存在することが明らかにされた。この現実的世界をまさに体現するのが、自然地理学が扱う世界であり、この世界こそが、上記の三つの世界に染み渡る総体的な基盤的世界であることが明らかにされた。

このような現実的世界を学ぶにあたっては、世界に生じるあらゆることを学び経験し、考えることが求められるが、とりわけ、人間が目を背けたくくなるような否定的な事柄、カントの文脈では人間の悪に連なる行為を直視する必要があることを吟味した。カントは否定的な事柄に近づくために、舞台としての世界を生きることを問題にしており、つまり、演劇において人間や世界の否定的と思われる事柄に関わることができる場を保障することを論じていることを明らかにした。このようなことが地理的世界を生きることに他ならないのであり、それゆえに、カントにおいては、否定的と思われることがらから目を背けないということこそ、具体的な世界としての地理的な現実的世界を学ぶ鍵があることが解明された。その成果は、日本カント協会の研究討議で発表されるとともに、2024年夏に刊行される『現代カント研究』に「舞台としての世界を生きる：カントの自然地理学が問うていること」と題して刊行される予定である。

以上、主に2点を通して、世界市民的教育が、空間をこそ重視していること、さらには、わたしたちが当然視する世界という空間に生きる意味こそが、根本的に重要であることが明らかにされた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Yuzo Hirose	4. 巻 30 (1)
2. 論文標題 The Spatial Nature of Trust in Cosmopolitan Education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Philosophical Inquiry in Education	6. 最初と最後の頁 43, 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuzo Hirose	4. 巻 99 (2)
2. 論文標題 Innerhalb und jenseits des Raums: Kosmopolitische Erziehung im Spiegel der deutschen und japanischen Erziehungsphilosophie neu gedacht	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Vierteljahrsschrift fuer Wissenschaftliche Paedagogik	6. 最初と最後の頁 164, 179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬悠三	4. 巻 1
2. 論文標題 最近10年間の日本における教育発展の現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代日本の教育改革	6. 最初と最後の頁 1, 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Beyond Banal Cosmopolitanism: Rethinking Cosmopolitan Education
3. 学会等名 The 4th Workshop on Educational Research of the Faculty of Educational Sciences and Psychology, Technical University Dortmund and the Faculty and Graduate School of Education, Kyoto University
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 広瀬悠三
2. 発表標題 世界市民的教育の空間を考究する 境界の内で/ 境界を越えて
3. 学会等名 教育哲学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Moral Trust for Cosmopolitan Education
3. 学会等名 Association for Moral Education 47th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Beyond the dichotomy between universalism and particularism: Cosmopolitan geography education
3. 学会等名 Deutsche Gesellschaft fuer Erziehungswissenschaft 28th Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広瀬悠三
2. 発表標題 地理教育における教員養成の教育哲学的意味—ケイパビリティの創出がもたらすもの
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuzo Hirose
2. 発表標題 Geographical Trust for Constructing a Sustainable Developmental Society
3. 学会等名 Association for Moral Education 46th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 南部広孝編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 検証 日本の教育改革	

1. 著者名 志村喬 (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 233
3. 書名 社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ:知識,カリキュラム,教員養成	

1. 著者名 広瀬俊雄・遠藤孝夫・池内耕作・広瀬綾子 (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 284
3. 書名 シュタイナー教育100年 80カ国の人々を魅了する教育の宝庫	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------